

国立大学法人岩手大学の平成 19 年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

岩手大学は、教養教育と専門教育の調和に基づく人材育成と、基礎研究と応用研究の調和による学術文化の創造に努める一方、それら教育研究成果の社会的還元によって地域社会と国際社会の文化の向上・発展に貢献することを目指している。

特に、平成 19 年度は、社会のニーズに機動的な対応を図るため、学部・研究科の枠組みを超えた全学教員所属組織「学系」に一元化し、学系を基軸とした学部及び大学院の教育・研究組織の整備が行われている。

この他、業務運営については、学長のリーダーシップによる戦略的な法人経営の一環として、当面する諸課題への対応を行うため、財務・労務担当理事の下に人事労務企画室を設置し、職員就業規則、教員評価、サバティカル等の諸課題に対する企画立案等の強化を図っている。

また、平成 19 年度計画においては、平成 18 年度からは改善されて中期計画に対応して必要な計画の設定が行われているが、引き続き、中期目標の達成のために適切な計画の設定が行われ、同大学が目指す目標を計画的に達成することが期待される。

財務内容については、平成 19 年度資金運用計画として、大口定期預金及び利付国債を効率的に運用した結果、約 1,141 万円（平成 18 年度約 360 万円）の利息収益を得るなど、資産の効果的運用が図られている。

教育研究の質の向上については、国際的コミュニケーション教育充実のため、学士課程入学者全員を対象に Pre-TOEFL-ITP を実施し、新入生の英語力の起点を確認するとともに習熟度別クラス編成を行うなど、一般教養教育の指導方法改善のための取組が行われている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 教育研究指導等の社会のニーズに機動的な対応を図るため、学部・研究科の枠組みを超えた全学教員所属組織「学系」に一元化し、教員の所属の授業担当を兼務発令する学系を基軸とした学部及び大学院の教育・研究組織の整備が行われている。
- 「学系」の設置に伴う学系基盤経費及び学系プロジェクト経費、全学的なサバティカル制度の導入に伴うサバティカル制度経費、卒業論文及び修士論文のテーマを地域

社会から公募する地域課題解決プログラム経費を学長裁量経費から措置するなど、戦略的な資源配分が行われている。

- 学生向け電子掲示板の活用のほか「アイアシスタント」の本格運用により学務関係業務の効率性向上が図られている。
- 運営手法、コスト軽減策、サービス精神等を取得させるため、事務職員を市内企業に派遣する民間派遣研修を実施しており、業務の合理化・効率化についての意識の涵養等が図られている。
- 平成 18 年度の評価委員会の評価結果を踏まえ、年度計画の設定数を増やし、中期目標・中期計画の着実な達成のため、計画的な業務の推進に努めている。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 30 事項すべて (重要性等を勘案したウエイト反映済み) が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善

- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 平成 19 年度資金運用計画として、大口定期預金及び利付国債を効率的に運用した結果、約 1,141 万円 (平成 18 年度約 360 万円) の利息収益を得るなど、資産の効果的運用が図られている。
- 東京都北区・板橋区と協定を締結し、東京都内の中小企業の技術力向上のために「ものづくり夜間大学」を新規開講し 120 名の参加者を得るほか、企業への訪問技術相談等の連携強化に努めるなど共同研究の推進に向けた取組を行っている。
- 毎月水道使用量の監視により水道使用料を節減 (対前年度比 6 % の減) したほか、光熱水使用状況を学内ウェブサイトに掲示しタイムリーな情報提供を行うなど、省資源意識の涵養を図っている。
- 暖房運転の短縮等により重油使用量の節減 (対前年度比 4 % の減) 等に取り組んでいる。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべて (重要性等を勘案したウエイト反映済み) が「年

年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び情報提供

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 連合農学研究科に国際的な視点を取り入れ、さらなる発展に資するためにカナダの大学教員を委嘱し外部評価を実施した結果、高水準の博士の学位を授与する大学として適切である旨の評価を得ている。
- ウェブサイトについて、ユーザビリティ調査の結果に基づき改善を図った結果、全国大学サイト・ユーザビリティ調査 2007/2008 ランキングで全国 23 位の評価を得るなど掲載内容の充実を図っている。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべて (重要性等を勘案したウエイト反映済み) が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他の業務運営に関する重要事項

- ① 施設設備の整備・活用
- ② 安全管理

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 化学系研究設備有効活用ネットワークプロジェクトを通じ、他大学との間で機器の相互活用を開始している。
- 施設の有効活用を図るため、総合研究棟 (農学系) を改修し、全学共通スペース (7 室、500 m²) を確保している。
- 全学的に環境マネジメントシステム ISO14001 の認証取得を目指して、「環境マネジメントシステム認証取得推進室」の平成 20 年 4 月設置を決定している。
- 研究費の不正使用防止のため、納品検収センターを設置するとともに、コンプライアンス室の設置、研究者行動規範の制定等の取組が行われている。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年

度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

評価委員会が平成 19 年度の外形的・客観的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

- 学士課程入学者全員を対象に Pre-TOEFL-ITP を実施している。
- アイアシスタントを本格稼働し教育目標・成績評価基準を含む包括的シラバスを作成・公表している。
- 全学共通教育として転換教育（基礎ゼミナール）を全学部必修として導入するとともに、教員及び学生向けパンフレット「ESD（持続可能な開発のための教育）履修ガイド」を作成している。
- 学術情報の流通基礎と発信機能の整備を図るため、「岩手大学リポジトリ」を作成しウェブサイト上に公開している。
- クラス担任制の実効化のための「クラス担任教員ハンドブック」を作成配布するとともに、学生指導担当教職員研修会においてワークショップを実施している。
- 研究協力課の産学連携・地域連携機能を盛岡市産学官連携研究センター（コラボ MIU）に集約させ、リエゾン、コーディネーター等との連携を密にし、学内外に対するワンストップサービスの強化を図っている。
- 地域との連携による研究開発機能を強化するため、北上市、奥州市及び花巻市と連携して設置した「金型技術研究センター」、「鋳造技術研究センター」及び「複合デバイス技術研究センター」を「融合化ものづくり研究センター」（時限 10 年）として発展的に統合・整備している。
- 地域産学官の新たな組織となる「いわて未来づくり機構」の設立に向けて、岩手県知事、いわて経済同友会代表幹事、岩手大学長の 3 者の呼びかけにより、県内の産学官を代表する有識者 7 名がラウンドテーブルで協議を行い、平成 20 年 4 月設立を決定している。
- 社会人経験があり、経済的に修学困難な学生を対象とした「学び直し」支援のための新たな授業料減免措置を行っている。
- 国際交流協定大学との交換留学を推進するため、新たに「海外留学支援」事業による支援制度を制定している。
- 学校不適應児童生徒への支援のため、附属学校で学部教員がスクール・カウンセラーとして教育相談を定期的実施している。